

令和2年度
第2回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化処理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：令和2年9月15日（火） 13:00～14:55

場所：WEB会議システムにより開催

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学大学院 環境科学研究科 教授	吉岡 敏明
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔

議事要旨

I 本日の議事

1. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その1業務について
2. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2業務について

II 検討内容

1. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その1業務について
新日鉄・クボタ・大林・TPT 特定共同企業体（以降、新日鉄・クボタ・大林・TPT JV と記載）より、業務内容について説明があった。

（1）敷地境界の空間線量率について

委員より、敷地境界の空間線量率は処理開始前後で差がみられなかったとのことだが、積雪によって低めの値になっていないか、との質問があった。新日鉄・クボタ・大林・TPT JV より、放射線は水で遮へいされるため、積雪時の空間線量率は低くなるが、測定日は激しく雪が降っていたわけではなかったため、積雪の影響は少ないと考えられる。また、空間線量率は継続して測定しているが、値に大きな変化はない、との回答があった。

(2) 中和物回収装置の運用状況について

委員より、仮設灰処理施設において新規に投入する薬剤の使用量を減らし、灰処理ばいじん量を低減する目的で設置した中和物回収装置について、計画どおり運用できているか、との質問があった。新日鉄・クボタ・大林・TPT JV より、実際に中和物回収装置で回収した中和物は、溶融炉の薬剤として再利用できている、との回答があった。

2. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2業務について

JFE・前田特定業務共同企業体（以降、JFE・前田 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 敷地境界の空間線量率について

委員より、敷地境界の空間線量率のうち、シミュレーションと比較して高い値が認められるが、その理由はなにか、との質問があった。JFE・前田 JV より、業務用地外の伐採や造成が行われていない土地に近接している地点がシミュレーションと比較して高い値になっており、処理の影響ではなく、バックグラウンドの影響と考えられる、との回答があった。

(2) 自動化設備の運用状況について

委員より、作業従事者への放射線安全管理対策として採用している自動化設備についてトラブル等なく稼働しているか、との質問があった。JFE・前田 JV より、設備の不具合等も発生しておらず、運営当初から順調に稼働している、との回答があった。

(3) 人身事故を防止するための安全管理について

委員より、人身事故を防止するための安全管理としてどのような取組を行っているか、との質問があった。JFE・前田 JV より、朝礼、終礼での安全管理周知事項の徹底のほか、事故を防止するという観点ですべての作業を行っている、との回答があった。委員より、引き続き、作業員の被ばく防止及び安全管理の徹底を継続する必要がある、との助言があった。

以上